

2026

03.21 SAT — 04.18 SAT

13:00 — 18:00

名前と輪郭をなぞる

渡邊 拓也

さわだ はるか

羽香

03.21-04.18

13:00-18:00

定休日：月・火

最終日は 13:00-17:00

水曜日は事前アポイント制

大阪市中央区南船場 4-12-25 1F/3F/4F, Osaka 5420081



Marco Gallery

Takuya Watanabe × Haruka Sawada × Waka

Group Exhibition

名前と輪郭をなぞる

2026.03.21 SAT - 04.18 SAT

Opening Hours : 13:00-18:00

Closed : Monday / Tuesday / National Holidays

Wednesday by appointment only

On the final day of the exhibition, closing time is 17:00



STATEMENT

私たちは、世界を理解するために、あらゆるものに名前をつけてきた。

名前をつけることで、それぞれの存在を図書館の本棚のように整理し、記憶に留めることができるようになった。

名前があれば探し出せるし、なければ、存在していたとしても見つからず、なかったことのように忘れられていく。

すれ違って気づかれない、名もない足元の雑草。

けれどその雑草には、一冊の本や一本の映画でも語り尽くせないような、壮大な物語が眠っているかもしれない。

今あらためて、意味を問い、名づけられていないものに目を向けること。

整頓されたラベルをはがし、意味をごちゃごちゃにして、分解して、再び眺めてみることに。

そんな営みを通して、私たちの見ている世界はどんなふうに変わって見えてくるのだろうか。

渡邊は、何気ない植物の向こうに広がる歴史や人々の記憶に触れようとする。彼の制作はリサーチがベースとなっている。そのリサーチは机上のものに留まらず、実際に現場に足を運び、人々との対話を通じて行われる。そのプロセスを通して生まれる空気感やつながりが、作品の核になっている。ただ情報を集めるだけでなく、自分の身体で感じることを大事にしながら、その土地のリアルな声に耳を傾けている。

さわだは、日々の暮らしの中でふと立ち止まってしまうような、ちょっとした違和感や気づきをきっかけに、まだ名前のついていない花を描いている。その花は実在しないけれど、どこかで見たような気がする不思議な存在である。

既存の枠組みでは説明しきれない、言葉になる前の感覚や風景をすくい上げる。

羽香は、日常の断片を手掛かりにして、鉄という硬質な素材を溶断機で切り出し、記号を生み出す。鉄は、まるで固定されて硬化した意味そのもののようにも見える。彼女はその硬さに、身体を使って向き合い、熱と力を込めて切断することで、意味をいったん解体し、もう一度組み直すとする。彼女の作品は、「意味」に縛られたり、そこから自由になろうとしたりするせめぎ合いの中でつくられている。日常の中にある記号やサインを、自分の体や街の風景と同じ目線で捉えながら感じ取り、それらの重さを身体を通して浮かび上がらせている。いつの間にか社会の中で私たちの視界を曇らせていたものの「重み」を知らせてくれる。

この3人による展示は、「すでに与えられた意味ではなく、経験や身体、記憶を通じて新しく立ち上がってくる意味」を共有するものである。作品を通して、私たち一人ひとりにとっての「リアリティのある風景」が、どこにあるのかをあらためて考え、そこから未来を描いていくためのきっかけになればと願っています。





さわだ はるか Haruka Sawada

1994 年

京都造形芸術大学 美術工芸学科総合造形コース 卒業

東北芸術工科大学 美術科工芸コース陶芸専攻 半期交換留学

福井、札幌を拠点に活動。

自分の命を、ふと俯瞰する時。

同じコンビニエンスストアに並ぶ、同じ商品。

更新され続ける陳列。

一度使われたら、役目を終えるプラスチックのスプーン。

役割や意味を超えて、

それらが視界を捉えてくる瞬間がある。

その瞬間に感じる、

説明しきれない引っかかりや、

理由のない確かな物質への共感を手がかりに、制作をしている。

私が描いているのは、

特定のモチーフや物語ではない。

動物や植物、人や物、場所、

有機物と無機物などといった区別を持たない状態で芽生えた
始まりの草原のような感覚だ。

輪郭は明確でありながら、意味は定めない。

少し愚直で、どこか不器用な形のまま、

そこに置いておく。

世界は特別な意味を持たず、

ただ静かに広がっている。

その中で、

ひとつひとつの存在が視界に立ち上がってくる感覚を見過ご
さないための、

混沌とした静かな場所を描きたいと思っている。

主な展覧会歴（個展、グループ展、アートフェア、受賞歴、その他）

個展

2020 「One Fine Morning」flat kitchen 福井）

2021 「green・gun PM」select shop gREEN 福井）

2021 「Sausage」MARCO Gallery 大阪）

2021 「RULES」CASA 福井）

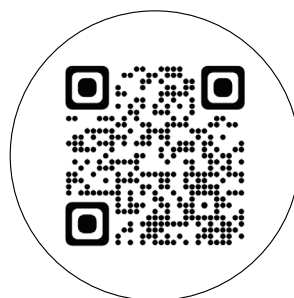
2026 「ANGELS」MARUICHI TOKYO 東京）

グループ展、イベント

2021-2026 「NEW FUKUI」松屋銀座 東京）

2024 「ARARÉ」ART SITE 25 福井）

2025 「MAISON & OBJET PARIS」Paris Nord Villepinte Exhibition Centre パリ）





no.48
2024
315×237×30 (mm) * 額含む
水性絵具、和紙





Creation Myth - NO.1 A
2023
1700 × 1700 (mm)
和紙





Butterfly
2023
400×600 (mm)
水性インク





Nakajima Park
2024
256 × 182 (mm)
和紙





no.35
2022
310×310×3 (mm)
和紙





羽香 Waka

2001 年東京都生まれ 東京藝術大学大学院彫刻科在籍 東京を拠点に活動。

・彫刻を風景の一部として捉え、身の回りにある景色や、自身で撮影した画像や収集した素材を引用し、立体として再構築する作業を繰り返しています。元来世界にある物量をどのように自分の形に変え、大気の粒子に触れさせるのか。とい

う感覚のもと、名前のつかない景色や規定されたルールを観測し掘り上げ、内情とその時のフェチズムの掛け合いによって生まれた作品は、風景の一部として、公共や社会へと鑑賞者の身体の接続を図ります。

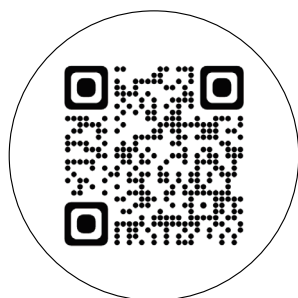
主な展覧会歴（個展、グループ展、アートフェア、受賞歴、その他）

グループ展、イベント

2019 年東京都立総合芸術高等学校卒業制作展/東京都美術館(上野)
2021年squattin'/廃屋(北千住)
2021年' Membrane' 膜/oa(東麻布)
2021年なに それ まじ -Neo somatic method-/KENMAstudio (尾久)
2022年P.O.N.D IN DOUBT/ 見えてないものを、考える。/PARCO(渋谷)
2022年 E.O.U-estream-/WWW(渋谷)
2022年top fermentation/天王洲セントラルタワー(天王洲)
2023年EASTEAST_/科学技術館(竹橋)
2023年風の目たち vol.2/freyaalt(トルコ・イスタンブール)
2025年第 73 回東京藝術大学卒業・修了作品展/東京都美術館(上野)

受賞歴

2023年久米桂一郎奨学基金



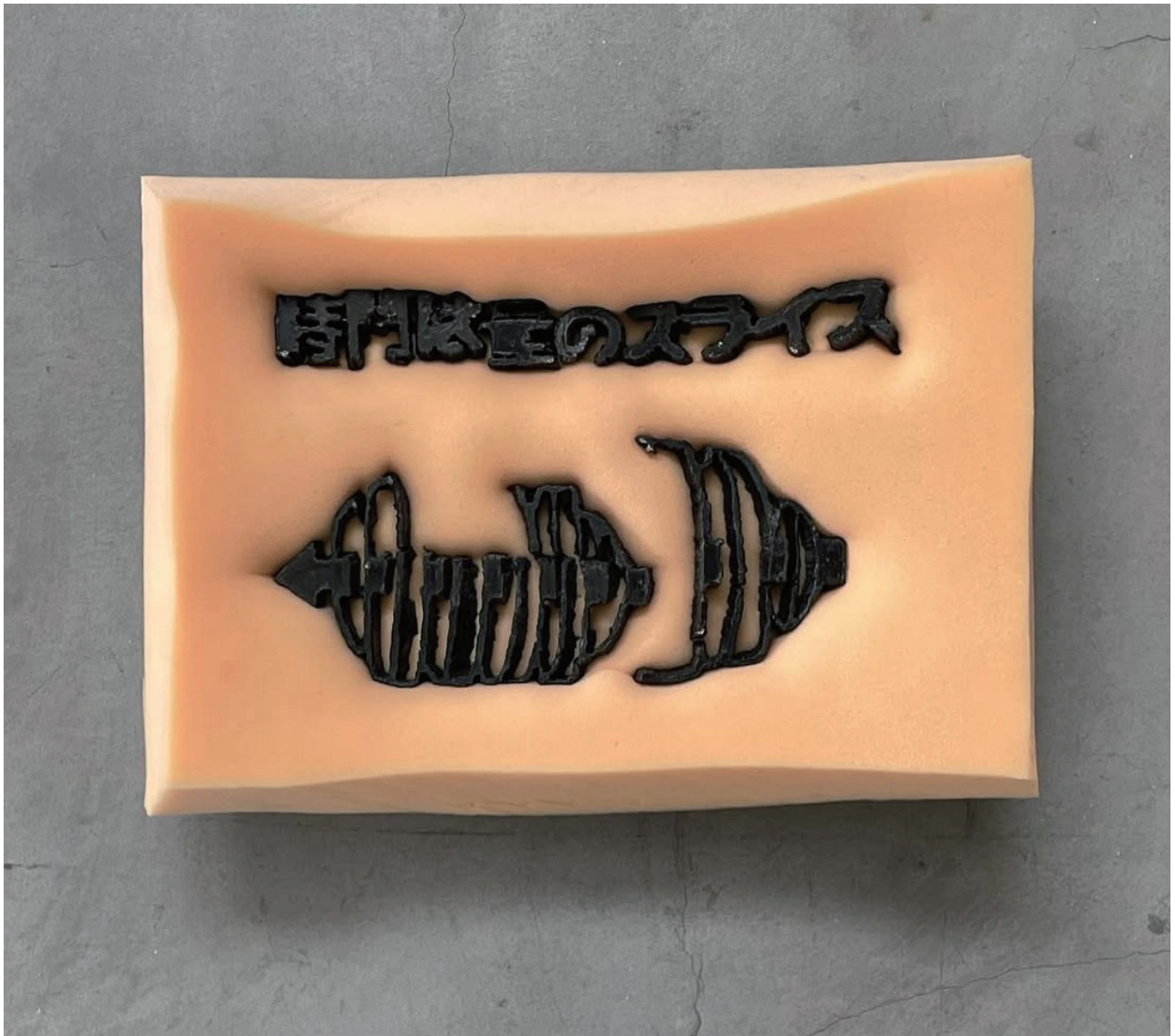


五体経路
2024
200×200×100 (cm)
鉄、スポンジ





ポータブルリゾート
2022
200×160×170 (cm)
鉄



時間は量のスライス
2025
50×30×6 (cm)
鉄、スポンジ



渡邊拓也 Takuya Watanabe

1990 年東京都生まれ

東京藝術大学大学院 美術研究科修士課程 先端芸術表現専攻 修了

ロンドン／東京を拠点に活動

渡邊拓也は、主に映像インスタレーションを手がけるヴィジュアル・アーティストである。移動や労働、人と環境のあいだにある複雑な関係性を主題とし、コミュニティとの関わり

や社会状況に対する綿密なリサーチを行う。個人の境遇や身体性、またはそれらを含む風景に埋め込まれた不可視の構造をひもときながら、権力と脆弱性の相互作用を描き出している。

主な展覧会歴（個展、グループ展、アートフェア、受賞歴、その他）

学歴

- 2018 Arts Initiative Tokyo アーティスト・プラクティス 2017 修了
- 2017 Arts Initiative Tokyo アーティスト・プラクティス 2016 修了
- 2016 東京藝術大学大学院 美術研究科修士課程 先端芸術表現専攻 修了
- 2014 多摩美術大学 工芸学科 陶専攻 卒業

個展

- 2024 クリテリオム 101 渡邊拓也, 水戸芸術館(茨城)
- 2020 「隣の人の肩にのる」日立市ビックセンター(茨城)
- 2015 TWS-Emerging 2015【第6期】「作った(られた)ものから考える。」トーキョーワンダーサイト渋谷(東京)

主なグループ展

- 2025 「Films of Return」(オンライン)
- 2025 「MiSHŌ residency オープンスタジオ」MiSHŌ residency(神奈川)
- 2024 「Some Sort of Tenderness*」Delfina Foundation(ロンドン)
- 2024 「CRITICAL ALLIANCES」SAM Residencies(シンガポール)
- 2023 「バグスクール：うごかしてみる！」BUG(東京)
- 2023 TOKAS レジデンス 2023 成果発表展「誰かのシステムがめぐる時」TOKAS 本郷(東京)
- 2022 「Meet the Residents / Open School #5」WIELS(ブリュッセル)
- 2022 「土蔵の疲れは夢」デカメロン(東京)
- 2022 「Exhibition of AAUK virtual Residency Project 2021」オンライン(ロンドン)
- 2021 「super vision / deportare」デカメロン(東京)
- 2019 「ARCUS Project 2019 OPEN STUDIOS」アーカススタジオ(茨城)
- 2018 「明け方の計略」駒込倉庫(東京)
- 2017 「野生展：飼いならされない感覚と思考」21_21 DESIGN SIGHT(東京)
- 2017 「ゆるんだ遠近法」gallery COEXIST-TOKYO(東京)
- 2016 「アートアワードトーキョー 丸の内 2016」丸ビル1階マルキューブ、3階回廊(東京)
- 2014 「トーキョーワンダーウォール公募 2014 入選作品展」東京都現代美術館(東京)



主な展覧会歴（個展、グループ展、アートフェア、受賞歴、その他）

アーティスト・イン・レジデンス

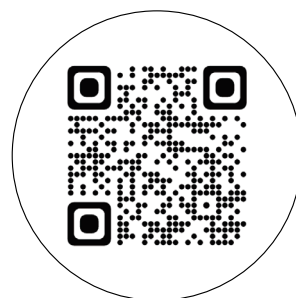
- 2025 MiSHŌ residency(神奈川)
- 2024 Delfina Foundation(ロンドン)
- 2023 SAM Residencies(シンガポール)
- 2022 WIELS(ブリュッセル)
- 2022 Co-research Residency - INTA-NET KYOTO(京都)
- 2021 AAUK 2021 年度 バーチャルレジデンス・メンターリング(ロンドン)
- 2020 Meets KENPOKU 交流型アートプロジェクト(茨城)
- 2019 アーカスプロジェクト(茨城)

助成金

- 2025 文化庁新進芸術家海外研修制度 二年
- 2024 一般財団法人 川村文化芸術振興財団 ソーシャリー・エンゲイジド・アート支援助成
- 2024 公益財団法人 野村財団 芸術文化助成
- 2021 公益財団法人 小笠原敏晶記念財団 新型コロナウイルス特別助成
- 2020 文化庁 令和 2 年度文化芸術活動の継続支援事業
- 2020 公益財団法人 小笠原敏晶記念財団 新型コロナウイルス特別助成

受賞など

- 2025 Films of Return, Special Jury Selection2025
- 2023 CAFx FILM MOSAIC 2023 the second prize(コペンハーゲン)
- 2016 アートアワードトーキョー 丸の内 2016 審査委員賞
- 2014 多摩美術大学 2013 年度卒業制作優秀作品





草葉の陰から | Those Beneath the Grass
2024
Video installation (video 10' 14")
Mixed media





T'es content d'avoir passé une journée avec moi ? / Are you happy to have spent a day with me? /

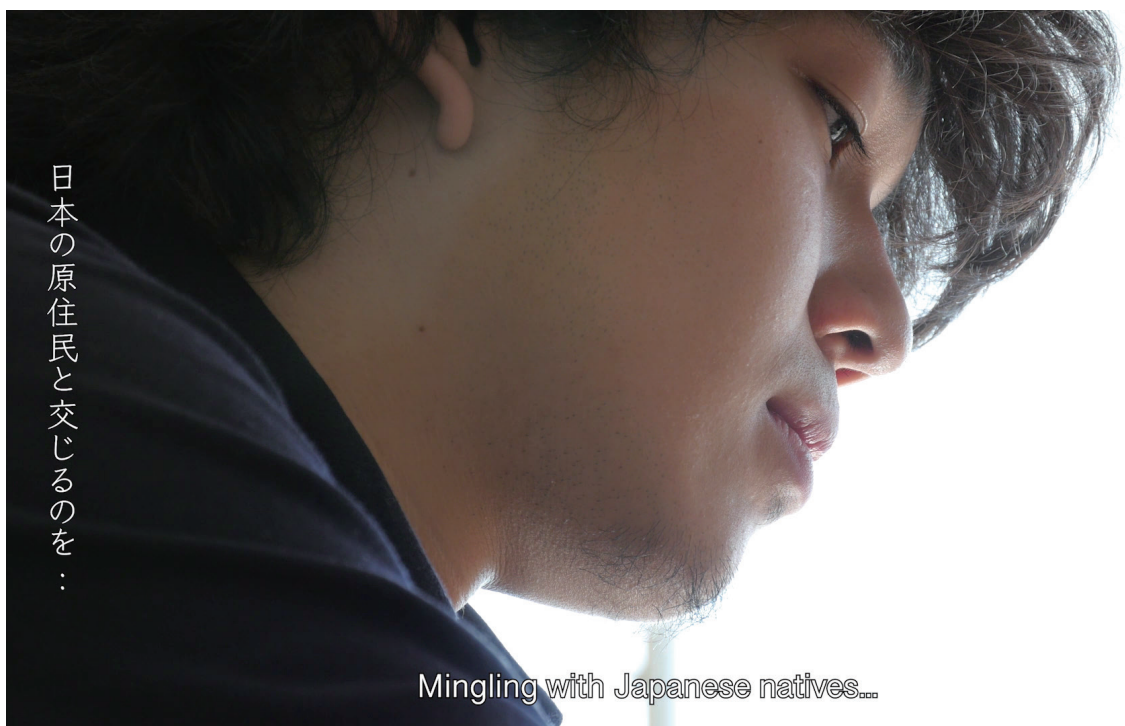
君は 僕と一緒に一日を過ごしてよかったですか

2023

Three-channel video installation (video 16' 51")

Mixed media





Good luck on your journey
2019
Single-channel video installation (video 24'32")
Mixed media





Branch, Stem, Root and Soil | 枝、幹、根 そして土
2023
Sound (approx. 5 min each)
Mixed media





Marco Gallery

Opening Hours : 13:00–18:00

Closed : Monday / Tuesday / National Holidays

Wednesdays by appointment only

On the final day of the exhibition, closing time is 17:00

お問い合わせ : info@marcoart.gallery

大阪府大阪市中央区南船場 4-12-25 竹本ビル 1F,3F,4F

Takemoto BIDG 1F,3F,4F 4-12-25 Minamisenba Chuo-ku,

Osaka City, Osaka, Japan

Tel: +81 06-4708-7915 E-mail: info@marcoart.gallery

